

児童厚生員・児童クラブアルバイトを募集

4月から市内の児童センター・児童クラブで働く人を募集します。

- 職務内容** 児童センター・児童クラブを利用する児童に対する遊びや生活の指導
- 申し込み** 2月15日(月)～3月11日(金)午前9時～午後5時(土(日)を除く)に、顔写真付きの履歴書又は申込書と、有資格者は資格証等を持って子育て支援課(あんぱく内)へ
- ※申込書はあんぱく・市公式ウェブサイトで配布。

◎児童厚生員

- 児童センター勤務**
- 勤務日時** 午前9時～午後5時で週2・3日(土(日)勤務あり)
- 賃金** 時給1140円、通勤割増1日200円
- 対象** 保育士・教員の資格を有する人

■児童クラブ勤務

- 勤務日時** (月)～(金)午後2時～7時(利用人数により午後6時までの勤務あり)、学校休

- 賃金** 時給1140円、通勤割増1日200円
- 対象** 保育士・教員・社会福祉士の資格を有する人

◎児童クラブアルバイト

- 勤務日時** 春休み・夏休み期間中の午前7時30分～午後7時で5・6時間勤務
- ※希望者は春休み・夏休み期間以外も勤務可。
- 対象** 18歳以上の人
- 賃金** 時給1000円、通勤割増1日200円



問▼子育て支援課 ☎(76)2319

市の妊産婦サービス、不妊治療助成制度

- 一般不妊治療等助成制度
- 対象期間** 昨年3月～本年2月の診療分
- 対象診療** 不妊検査、治療の効果を確認するための検査、一般不妊治療、人工授精
- ※継続する2年間が助成対象。
- 対象者** 夫又は妻のどちらかが市内在住で、夫婦ともに健康保険に加入しており、医師に一般不妊治療の必要があると認められた法律上の夫婦
- 助成額** 1夫婦1年度につき自己負担額の2分の1(上限5万円)
- 申し込み** 3月22日(火)までの(月)～(金)午前8時30分～午後5時15分又は3月13日(日)午前9時～正午に、申請書類・領収書原本・健康保険証・夫婦分・印鑑(夫婦分)等を持って市保健センターへ
- ※申請書類は、同センター・市公式ウェブサイト・市内関係医療機関で配布。
- ※医療機関の証明書発行には時間がかかります。余裕をもって申請してください。
- 書類不備の場合は受け付け不可。

- 母子健康手帳の受け取りと妊婦健診の受診
- 妊娠に気づいたら、医療機関で妊娠届出書をもらい、早めに市保健センターで母子健康手帳を受け取りましょう。
- 手帳と一緒に、妊婦健診の受診票等も渡します。定期的な妊婦健診を受け、お腹の赤ちゃんの成長と妊婦の健康を守りましょう。

- 県外や助産院で受診する場合** 医療機関で健診費用を支払った後、市保健センターで還付手続きをしてください
- 転入した場合** 転入前の市区町村で交付された受診票は、本市では使用不可。市保健センターで本市の受診票と交換してください
- 転出した場合** 本市の受診票は使用不可。転出先の市区町村で相談してください

- マタニティマークを知っていますか?** 市保健センターでは、母子健康手帳の交付時に、マタニティマークのキーホルダーを配布しています。バッグ等に



マタニティマーク

- 出生体重が2500g未満のときは連絡を** 母子健康手帳交付の際に渡した「低体重児届出書」を記入の上、速やかに市保健センターへ提出してください。
- こんにちは赤ちゃん訪問** 看護師・保健師が自宅を訪問し、子育てに関する不安や悩みの相談に乗ります。また、子育て支援情報誌を渡します。
- 対象** 生後4カ月未満の赤ちゃんがいる全ての家庭
- その他** 子育ての不安は、身近な経験者や市保健センターに相談しましょう

問▼市保健センター ☎(76)1133

アグリライフ支援センターで「農」を楽しもう

分かります。

- ところ** アグリライフ支援センター
- 内容** 3㎡程度の畑でトウモロコシ、ナス、ピーマン等、約6種類の野菜を育てます
- 対象** 市内在住の人
- 定員** 20組(定員を超えた場合は、初回参加者を優先した上で抽選)
- 費用** 1500円(種子・苗・保険代を含む)
- その他** 器具等は貸し出しします
- 申し込み** 2月23日(火)～3月2日(火)午前8時30分～午後5時15分(月を除く)に、電話かファクス・Eメール・郵送(必着)で代表者の住所・氏名・連絡先、参加人数をアグリライフ支援センター(☎(92)6122/agrilife@city.ano.acchi.jp)へ
- ※下のQRコードから電子申請も可。



問▼アグリライフ支援センター ☎(92)6200

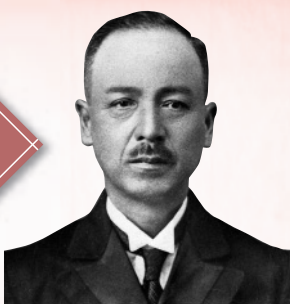
多くは「〇〇小唄」とか「△△音頭」等のタイトルが付けられたいわゆる「新民歌」で、中には岩槻自身が三味線や太鼓を手がけたり、振り付けをしたりすることもありました。県内各地の行事や宴会で盛んに歌われていたようです。安城に関する作品も多く、「安城野原節」「碧海音頭」のほか、養蜂にちなんだ「ハチ蜜小唄」や料理店の開店によせた「たこさく音頭」もあります。ご当地ソングの需要にこたえる人気作家でもあったのです。

（安城の偉人）は今号で終わります



当時の愛知県農事試験場種芸部(池浦町)

～優秀な稲の品種を生み出した「稲の神様」～



い わ つ き の ぶ し 治 岩 槻 信 治

明治39(1906)年、県立農林学校(現在の安城農林高等学校)を卒業した17歳の少年が、臨時雇として愛知県立農事試験場で働き始めます。後にこの農事試験場の技師として、全国的にも高く評価される優秀な稲の品種を生み出し、「稲の神様」と讃えられた岩槻信治(明治22～昭和23年)です。

農林学校の校長である山崎延吉が農事試験場の場長も兼ねており、岩槻の優秀な成績やまじめな性格をよく知っていたことから、卒業後に抜擢したのです。以後亡くなる直前までの42年間、碧海郡長瀬村中園

(現在の岡崎市中国町)の自宅から安城まで毎日自転車通ったといえます。

岩槻の品種改良は、明治44(1911)年に大阪の国立農事試験場で人工交配の技術を学んだことに始まります。翌年から三年計画で県内から2000種の稲を集め比較する作業にとりかかりました。

岩槻は、品種それぞれの特徴だけでなく一株ごとの個性を見抜いてかけ合わせるという、とても地道な観察を重視し、やがて多収穫の「愛知旭」「千本旭」等、ねらい通りの品種を次々に誕生させました。「金南風」のように、岩槻没後の昭和30年代に全国一の作付面積を誇った品種もあります。もち米・酒造米の改良や山間部での「いもち病」に強い品種を作り出したことも、ライフワークのひとつでした。

岩槻には「稲の神様」とは別の顔がありました。民謡の作詞・作曲を得意とし、大正の終わりから昭和11(1936)年頃まで、「三江」というペンネームで160曲以上の作品を残しています。

- 一坪農園で野菜を作ろう**
- とき** 4月23日(土)、5月14日(土)・21日(土)・28日(土)、6月11日(土)午前10時～11時(全5回)
- ※4月23日は午前11時30分まで、5月21日は午後1時30分まで